

臨池亭と滴翠軒

涉成園の臨池亭と滴翠軒の 2 つの客殿は、東本願寺を訪れた客人のための茶会や接待に使われてきた。臨池亭は池に面して縁側があり、その名前も“池を臨む亭”と意味する。「滴翠軒」は、裏の築山から池に流れ込む小水にちなんで「小川のほとりの軒」という意味だ。どちらの建物も、外観や畳の部屋には目立った装飾がなく、控えめな造りになっている。

かつて臨池亭と滴翠軒は、庭園の北門から入っていた。2 つの建物は 1864 年の火災で失われ、1884 年に再建された。現在、北門は使われていないが、臨池亭も滴翠軒も東本願寺を訪れる団体客のために貸し出されている。